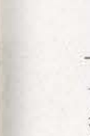
2002年新春トーク

今年の留萌は、ボランティア元年!!

ボランティア活動が市民の活躍で活発化



みなさん、明けましておめでとうございます。

近年、市民のボランティア活動が、全国的に活発になってきています。

留萌でも、保健・福祉、文化・スポーツ、教育・青少年、環境などのさまざまな分野で、市民のボランティアの芽が育っています。

そこで、今年の『新春トーク』は、病院、図書館、高齢者福祉、水泳の分野で活躍する、4人の方にお集まりいただきました。

それでは、みなさんがボランティアを始められたきっかけからお話ししていただけますか。

わたしの場合は、市立病院の看護部長さんに誘われたのがきっかけで、「何か患者さんのためになれば」と思い、市立病院のボランティアを始めました。

わたしたちの活動は、病院玄関での案内、ソーイング（裁縫）、園芸、季節に合わせた院内の飾り付け、イベントのお手伝いのほか、ベビーシッターや図書の整理などをしています。

活動を通じて、「ボランティアは一人ひとりの力の積み重ねが大きな力になる」と実感しています。

わたしは本が好きで、よく図書館に通っていました。

受付カウンターに貼ってあった『ボランティア募集』の案内を見て、「何か役に立てることがあれば、お手伝いしたい」と思ったことがきっかけです。

司書さんといっしょに絵本や読み方の勉強を続け、昨年4月に「お話の会もこもこ」を発足しました。

わたしたちは、小さい子供を対象に、本の読み聞かせをしたり、図書館の行事（ブックリサイクル市）のお手伝いをしています。

昨年の11月には、「本の読み聞かせの大切さ」をテーマに講演会を開催しました。

「女性懇話会ウイシュ」は、21世紀に向かって女性のパワーを発揮したいという願いをこめて、一昨年の9月に発足しました。

「21世紀の高齢化社会をいかに楽しく生きるか」をテーマに勉強会をしてきたなかで、福祉、特に「高齢者に何かお手伝いはできないか」と考えたことがきっかけで、介護保険の適用にならない方々にデイサービスをする宅老所「サロンウイシュ」を、昨年7月に、道内の民間ではじめて開所しました。

はじめは、どれだけの方に利用していただけるかとても不安でしたが、開所の時点で17名に会員登録していただきました。現在では会員も33名になり、たくさんの方々に利用していただいていることを大変嬉しく思っています。

「ウイシュ」の活動を、みなさんに知っていただくため、また、ボランティア活動をガラス張りで運営するために、昨年の開所と同時にNPO法人格も取得しました。

みなさんとの出会いやきずなを大事にして、今後も「宅老」を続けていきたいと思っています。

温水プールぶるもは、市内で一番新しい公共施設です。

「ぶるもグループ」は、「ぶるも」のスタッフだけではできないことを助けようということで、昨年10月に発足しました。

安全に、楽しんで水泳ができることが基本と考えていますが、そのためには指導が必要です。

わたしたちは水泳の普及、指導者の育成、事故防止の3つをテーマに、15名のメンバーと共に活動をしています。

昨年の秋には、障害をもつ方からの依頼があり、「ぶるも」のスタッフといっしょに水中歩行をサポートしました。

今の課題は、もっと指導者や気持ちの合うメンバーを増やしたいということです。

相手の喜びが自分の励みになる

ボランティアと言うと、「タダでサービスを受けられる」というイメージがあります。

でも、ボランティアは個人の趣味でできるものではなく、個々のメンバーには、まずある程度の知識や技術が必要ですし、組織としての自立性も必要です。

ボランティアの活動や意義を社会に根付かせるには、まだまだ課題があると思います。

ソーイングでは、リーダーを中心に、旧病院で古いベッドカバーをリフォームして、レントゲンフィルムを入れる袋を作ったんです。

それが新しい病院で使われているのを偶然見かけ、「自分たちのしたことが何かのためになっているんだ」と大変嬉しく思いました。

わたしはボランティア精神も分からないまま始めましたが、そんなできごとが「自分の励みになるんだな」と感じました。

読み聞かせの場合は、相手の反応が目の前にあります。

子供はとても喜んでくれますので、反応がすぐ見えるっていうのはとても励みになりますね。

いっしょに来ているお母さんの育児相談も受けたり、自分の体験談をお話ししたり。

手遊びをお母さんに覚えてもらったりもします。

昔の遊びに取り組んでいるグループもあります。

グループ間の横のつながりや連携ができれば、もっと活動が広がって、効果が高まりますね。

今は核家族化で、家庭にいても、おじいちゃん、おばあちゃんの知恵が伝わりません。

普段の生活で接点がないので難しいですね。

高齢社会で、お年寄りの比率は高くなっても、元気なお年寄りもたくさんいます。

高齢者を保護するだけではなく、その能力をもっと社会で発揮してもらいたいし、そういう社会にならないと。

先日、74歳になるわたしの母が、ぼけ防止にお手玉をしていると、20歳になる息子がいっしょにやりだして、とても上手になりました。お年寄りと若者が、もっとお互いを認め合えるといいですね。

「宅老」のメニューは、利用者のみなさんと話し合い、要望を取り入れて進めています。

今年は、高齢者と子供たちとの交流のために、幼稚園でのお食事会や小学校の授業参観などにも行ってみたいと思っています。

上野（うえの） 温港（あつこ）さん

ボランティア・スマイル

「今年も"ありがとう"の一言を励みに、もっと使ってもらえるボランティアになりたい」

長田（ながた） 久美（くみ）さん

おはなしの会もこもこ会長

「今年は、会員の養成など、会の土台作りの年。普及活動の対象者の年齢の幅を広くしたい」

日下部（くさかべ） 恵子（けいこ）さん

女性懇話会ウイシュ会長

「今年は『サロンウイシュ』を充実させ、各地域で行い、利用者の送迎もしたい」

戸ノ崎（とのさき） 正樹（まさき）さん

ぶるもグループ副代表

「今年は、水泳指導員の増員と昼間の活動支援を強化したい」